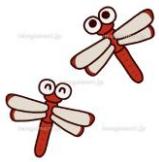


おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—おしゃべり上手なのに—

NO. 112



「そんな力があるんだから、やればできるでしょ?」「やらないのはズルいよ」「ふざけてるだけなんじゃないの?」と言われがちな子がいます。一つひとつをとれば、できる力はあるように見えるのに、求められている“今ここで”ができなかったり、続かなかったりする子です。

今回は、そんな子ども達とのお付き合いを通じて感じていることをお話しします。

おしゃべり上手な子の中に、自分が伝えたいこと、やりたいことは、言葉巧みにしゃべってくるのに、こちらからの声かけには、言い訳をしたり、まことしやかな理由をつけてやらなかったり、自分勝手に見えたり、おへそが曲がっているように見えたりします。本当は、「何があるのかわからず、怖いんだよ」「落ち着かないんだよ」と言いたいのに、まっすぐに言葉にできなかったり、気持ちを伝える言葉を使えなかったりすることが多いです。反面、モノの名前や自分の興味のあることは、「すごいね」と感心するほど深い知識があり、言葉巧みに説明してくれる姿があったりします。気持ちよく過ごしている時は、やさしい言葉で話せたり、相手に気を使ったりもできます。でもじつは、自分のペースでのやりとりが多く、会話をしているように見えて、双方向のことばのキャッチボールが苦手なんですね。

なので、こちらからの話を優先しようとすると、それをさえぎり、なかなか働きかけに応じようとしません。その子の言い訳や反発のことばに、ことばで返して説得しようものなら、「わからなくて怖んだよ」「できないんだよ」「最近、上手くいってなくてさ…」といった本当の気持ちから、どんどん離れてしまいます。困り感も大きくなってくると、その子の言葉は止まりません。何とかしたい気持ちを、ちょっと違った言葉を連発して表します。しまいには、言い尽くせず手が出てしまうこともあります。そして今度は、手を出したことをとがめられ、本来何につまづいていたのか、わからなくなっています。子どもの中に残るのは、ダメと指摘されたことだけです。

そんな時は、ことばにことばで返すのではなく、気持ちを合わせること、全く別の話題での簡単なやりとりで、お互いの波長を合わせていくと、徐々に立ち直れることができます。そして、あるタイミングで、気持ちよく一緒に立ち上がって本流に戻ることができます。一緒に立ち直れた時の気持ちよさったらないです。気持ちが通い合っていますからね。試合終了! ノーサイドです。

そんなことを繰り返しているうちに、余計な力を巻き散らしながら、少しずつスマートな過ごし方を身に付けていきます。お友達と一緒に過ごしたい気持ちや、かっこよく過ごしたいという思いが勝るようになってくるのです。放デイに通う子ども達が、その軌跡を教えてくれています。

身に付けたいポイントがひとつあります。“これが楽しい”と自分自身が思える遊びが見つかると、子どもの姿は変わっていきます。熱中する楽しさが心を整え、その遊びを楽しみに少し我慢できるようになり、同じ趣味の子とのやりとりが楽しめるようになってきます。大事なのは遊びです。

そんな不器用な姿に対して、「日頃の関わり方が悪いんじゃないの?」と、ご家庭が言われてしまうことがあります。それは間違います。見えにくい“つまずき”に、どう向き合っていけばよいか日々悩み、試行錯誤されています。リスペクトされるべきですね。(R7. 9) K

